

令和7年第6回
教育委員会定例会教育長報告

令和7年6月19日（木）

- | | | |
|---|--|-----|
| 1 | 令和7年第2回市議会定例会一般質問対応状況について | 資料1 |
| 2 | 校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について | 資料2 |
| 3 | 令和7年度武蔵村山市立学校学校評価（計画）について | 資料3 |
| 4 | ～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～第48回武蔵村山市
歩け歩け大会の開催結果について | 資料4 |
| 5 | その他 | |

令和7年第2回市議会定例会一般質問対応状況について

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
1 清水議員 (新政会)	保育所等の給食費無償化、食材料費の支給について	②市立小・中学校以外に通う児童・生徒、在宅の児童・生徒の食材料費の支給について伺う。	市立小・中学校に通う児童・生徒の学校給食費の無償化につきましては、令和2年6月から断続的に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を、令和6年4月からは東京都の補助金等を活用して実施してまいりました。市立小・中学校以外に通う児童・生徒及び在宅の児童・生徒につきましては、当該補助金等の対象となっていないことから、実施しておりません。
	第六次特別支援教育推進計画の策定に向けて	教育と福祉の連携の中で、子どもの可能性を伸ばすことができる計画にする必要がある。 ①計画策定について伺う。	現行計画である第五次特別支援教育推進計画の計画期間が令和7年度をもって満了となることから、現在、第六次の特別支援教育推進計画の策定に向け、教育・福祉関係者等で組織する特別支援教育推進計画策定委員会の設置に向けて、現在調整を進めているところでございます。
		②特別支援教育の現状と支援について伺う。	義務教育段階における特別支援教育の現状でございますが、令和6年度に教育指導課教育支援係を教育センター内に配置し、特別な支援を必要とする児童・生徒とその保護者に対して、これまで以上に適切な教育相談や就学支援等の充実が図られるよう取り組んでおります。 また、知的障害特別支援学級及び自閉症・情緒障害特別支援学級につきましては、東部地区に雷塚小学校、中部地区に第一小学校、そして、令和7年4月から西部地区の第十小学校に開設いたしました。 教育委員会といたしましては、特別支援教育の更なる推進に努めてまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。
2 鈴木議員 (市民の力)	朝の小一の壁問題について	②子どもたちに朝の居場所を提供する考えがあるか、市の見解を伺う。	子どもたちに朝の居場所を提供する取組につきましては、一部の自治体において、子どもを見守る者を配置し、校庭や屋内運動場を開放するほか、学校に併設されている学童クラブ等を提供していることは承知しております。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
2 鈴木議員 (市民の力)	朝の小一の壁問題について	②子どもたちに朝の居場所を提供する考えがあるか、市の見解を伺う。	現在、各学校におきましては、開門時間や登校時間を早めるなどの対応を行い、子どもたちが校門の外で待機することのないよう努めているところでございますが、令和7年度から東京都では、小学校における児童の居場所を提供する取組について、区市町村への財政支援を開始することから、実施するに当たっての本市における課題などを整理してまいりたいと考えております。
	学校の図書館システムについて	①学校の図書室に図書館システムを導入していない理由は。 ②今後導入する考えはあるか、市教委の見解を伺う。	図書館システムの導入につきましては、蔵書管理や貸出業務などの効率化を図ることにより、学校司書が児童・生徒からの相談に乗ることができるなど、図書の有効活用による効果的な学習が期待できるものと考えております。 現在、更に効果的な図書の活用を図るため、学校間や市立図書館を連携させ、相互利用が可能となるシステムの導入について検討しているところでございます。
3 木村議員 (市民の力)	社会教育団体の登録と利用について	社会教育団体の登録による施設利用時の減免について、統一的な基準になっていないのではないかとと思われる。その理由と登録や利用の現状について伺う。	施設使用料につきましては、社会教育関係団体に登録することにより減免の対象となります。ただし、総合体育館につきましては、他の施設とは異なり、指定管理者が認める社会教育関係団体を減免する規定がございます。これは、会議室などの他の施設を利用せず、総合体育館のみを利用される団体を対象としているためでございます。 なお、総合体育館の指定管理者が認めた令和6年度の社会教育関係団体は52団体で、減免の実績は2,592件となっております。
4 大野議員 (新政会)	小・中学生の卒業アルバムのデジタル化について	①これまでの卒業アルバムの制作方法について伺う。	卒業アルバムの制作方法につきましては、多くの学校でアルバム制作の専門業者に委託しております。
		②卒業アルバムのデジタル化によるメリット・デメリットについて伺う。	メリットといたしましては、データとして保存することにより、保管場所が不要となること、写真が経年劣化しないこと、クラウドを介して関係者がアルバムを閲覧できることなどが挙げられます。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
4 大野議員 (新政会)	小・中学生の卒業アルバムのデジタル化について	②卒業アルバムのデジタル化によるメリット・デメリットについて伺う。	デメリットといたしましては、将来的にデータの保存形式や閲覧環境の変化によって、アルバムを見ることができなくなるリスクがあることが挙げられます。
		③デジタル化に伴う費用について伺う。	費用につきましては、業者によっては印刷・製本コストを抑えられる一方で、クラウドサービスの利用料など別の負担が生じる場合もあるものと考えておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。
5 田口議員 (新政会)	郷土愛を育む教育について	①歴史民俗資料館及び分館の活用について	歴史民俗資料館及び分館につきましては、村山大島紬の展示や、無形民俗文化財、東京陸軍少年飛行兵学校等に関する資料の紹介をするなど、郷土武蔵村山に対する理解と関心を深めるための施設として御利用いただいております。
		②地域との交流について。	地域との交流につきましては、現在、まちづくり学習を通して、地域人材や伝統文化に触れる学習を進めております。これらの学習を通して、地域に愛着をもつ児童・生徒の育成に努めてまいります。
	総合運動公園運動場第2運動場の整備について	①トイレの洋式化について。	総合運動公園運動場第2運動場のトイレにつきましては、トラック北側と南側に2施設あり、男女合計で洋式が6箇所、和式が3箇所となっております。現時点では、和式トイレを洋式に改修する予定はございません。
		②倉庫のシャッターについて。	倉庫のシャッターにつきましては、令和6年11月に修繕したシャッター1箇所が再び故障したことから、今後、修繕を行う予定でございます。
	③放送室の雨水対策について。	放送室の雨水対策につきましては、施設の老朽化等により強い雨が降ると、グラウンドから雨水の流入等が考えられることから、今後、原因を調査し、対策を講じてまいります。	
6 前田議員 (公明党)	市民の健康増進について	①市民体力測定の実施について。	総合体育館において実施している体力測定につきましては、運動能力の現状を把握することや自分自身の体力向上を目的に、文部科学省が定める「新体力テスト実施要項」に基づき、握力測定、上体起こし、長座体前屈など6歳以

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
6 前田議員 (公明党)	市民の健康増進について	①市民体力測定の実施について。	上の健康な方を対象に実施し、指導、助言を行っております。
7 田村議員 (日本共産党)	温暖化の中、高すぎる学校体育館エアコン利用料の早期見直しを	①エアコン利用料の金額設定の根拠と近隣市の料金。	小・中学校に設置された空調設備の利用料につきましては、冷房と暖房、各使用時の通常稼働と最大稼働の費用を積算し、その平均値から1時間当たり550円を設定したところでございます。 また、近隣の昭島市、国立市及び東大和市では、空調設備の使用料が規定されておりましたが、立川市では小学校1回当たり150円、中学校1回当たり200円と規定されております。
		②体育授業でのエアコン使用の基準。	空調設備につきましては、武蔵村山市第四次地球温暖化対策実行計画に基づき、全庁的な省エネルギー対策として運用しております。過度な運転は控え、冷暖房の温度は適正な設定、夏は28度、冬は20度としております。 しかしながら、熱中症等が生じないよう配慮し、室内温度を適正に保つよう、空調設備の運転を行っているところでございます。
		③今年度行う公共施設の使用料見直しはどのような方法で行うのか。	公共施設の使用料につきましては、令和7年度に見直しをすることとなっていることから、現在、光熱水費等の維持管理経費や人件費等の各施設に係る経費を積算しているところでございます。
8 遠藤議員 (公明党)	地区会館など公共施設の利便性向上について	①近年、全国の公共施設で電子錠の導入が進んでいる。近隣市の状況と採用する理由及び本市の予定を伺う。	公共施設の予約完了時に、利用者へ送信される暗証番号により、部屋の解錠が可能な電子錠の導入状況につきましては、近隣市では、東村山市などがございます。東村山市に伺ったところ、採用理由は、主に利用者の利便性の向上や管理運営の効率化とのことでございます。 電子錠につきましては、現在のところ、本市への導入の予定はございませんが、今後、東村山市の取組を参考として、本市における課題を整理してまいりたいと考えております。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
8 遠藤議員 (公明党)	地区会館など公共施設の利便性向上について	②エアコン稼働時期や温度設定のルール緩和を伺う。	空調設備につきましては、武蔵村山市第四次地球温暖化対策実行計画に基づき、全庁的な省エネルギー対策として運用しております。稼働時期の設定はございませんが、過度な運転は控え、冷暖房の温度は適正な設定、夏は28度、冬は20度としております。 しかしながら、熱中症等が生じないように配慮し、室内温度を適正に保つよう、空調設備の運転を行っているところでございます。
9 石黒議員 (公明党)	市内大型商業施設と本市の連携について	敷地内にアーバンスポーツ(スケートボード、バスケットボール3×3、パルクール等)用設備が整備されている。本市との連携で広く普及促進を図れないか伺う。	市内大型商業施設では、令和7年3月にスケートボード、3×3(スリーエックススリー)バスケットボール、インラインスケートやパルクールの体験会などが開催され、また、令和7年9月には、同施設においてアーバンスポーツとエンターテインメントを融合したイベントの開催が予定されており、教育委員会が後援する予定でございます。 今後も市内大型商業施設では、アーバンスポーツの普及に取り組んでいく考えであることから、本市においてもアーバンスポーツの情報や魅力を発信していくとともに、多くの市民の方が参加するよう大型商業施設と連携してまいりたいと考えております。
10 長堀議員 (新政会)	学校体育施設使用手続きの効率化と子どもが活動するスポーツ団体への支援について	①団体登録、使用申請、支払いなど学校体育施設使用に係る手続きの効率化について伺う。	学校体育施設の利用につきましては、公共施設予約システムの利用ができないため、登録団体は、学校での空き状況の確認後、市での申請や使用料の支払いを行っていただいております。 今後、他市の事例等を参考に、利用団体の利便性の向上に努めてまいります。
		②子どもが活動するスポーツ団体への支援について考えを伺う。	子どもが活動するスポーツ団体への支援につきましては、スポーツの振興及び青少年の心身の健全な育成に寄与することを目的に、スポーツ少年団に対し、補助金を交付しております。また、一般社団法人武蔵村山市体育協会では、公益財団法人東京都スポーツ協会が、地域におけるジュニアスポーツのすそ野を広げることを目的として行う「ジュニア育成地域推進事業」を活用

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
10 長 堀 議 員 (新政会)	学校体育施設使用手続きの効率化と子どもが活動するスポーツ団体への支援について	②子どもが活動するスポーツ団体への支援について考えを伺う。	し、加盟団体への支援を行っております。 今後も、体育協会等と連携し、子どもたちが活動するスポーツ団体の支援に取り組んでまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について

(単位：人)

	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
校長選考	3	2	4	1	4	1
教育管理職 A選考	0	0	1	1	0	0
教育管理職 B選考	1	0	5	1	2	1
教育管理職 C選考	1	0	1	0	0	0
主任教諭 選考	27	7	34	11	33	14

※ 令和7年6月9日時点

令和7年度

武蔵村山市立学校
学校評価（計画）

令和7年6月19日

武蔵村山市教育委員会

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第一小学校 校長名：押本 純樹

【経営理念】「児童自らが学びに向かいながら、共に生きることに喜びを感じ、誰一人取り残さない学校を創造する」を実現させるために次の3点を柱とし、推進する。

- (1) 児童の自ら学びに向かう力を育てる学校（自立） (3) 児童の思いや願いが実現できる学校（創造）
 (2) 児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校（共生）

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】 高橋 勉	
学校運営協議会（学校評価分）	
第1回	令和7年 7月 3日（木）
第2回	令和7年 8月28日（木）
第3回	令和8年 2月12日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。 【学校経営方針3の(7)】	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。	・自分から進んで授業に取り組んでいる児童が80% ・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者が80%						
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。朝学習や家庭学習等を通して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。 【学校経営方針3の(1)(2)】	遊びを通して、みんなと関わる楽しさを知り、時にはあるけんかも一つの大事な経験として、相手を思う気持ちを養う。	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童が80% ・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者が80%						
		音楽集会の活動を通して、みんなと歌う楽しさを知り、互いの声を響かせ、豊かな情操を養う。	・音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っている児童が80% ・自分の子が音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っていると感じている保護者が80%						
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の確立し、心身共に健康な体をつくる。 【学校経営方針3の(5)】	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童が80% ・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者が80%						
		運動やスポーツへの興味・関心を広め、体力を高める活動の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
学びの充実	様々な人たちと関わり合いながら、自ら行動する力を養う。 【学校経営方針3の(3)】	各学年で生活科や総合的な学習の時間を通して、まちづくり学習(ゼロカーボンチャレンジ校の活動含む)の取り組み、その成果を発信する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答が、70%以上						
信頼される学校づくり	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。 【学校経営方針3の(4)】	5つの生活習慣(校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする)にこだわり、年間を通して定着を図る。	・5つの生活習慣が身に付いている児童が80%。 ・自分の子に5つの生活習慣が身に付いていると感じている保護者が80%。						
		誰一人取り残さない学校を創る。 【学校経営方針3の(6)(8)】	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童が、85% ・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている保護者が、85%					

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和 7 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第二小学校 校長名：細田 真司

【経営理念】
 「児童と教師が自分らしく生き生きと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」を目指し、その創造のために以下の点を掲げ、推進する。
 (1) 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。
 (2) 確かな自尊感情をもち、周りの人を大切にする。(自分が好き。みんなが好き)
 (3) 保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】加藤 浩一
 学校運営協議会（学校評価分）
 第1回 令和7年5月30日（金）
 第2回 令和7年9月 5日（金）
 第3回 令和8年1月30日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和8年1月30日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	児童にとって楽しい授業を展開し、学習内容の確実な定着を図る。	日常的に語彙を豊かにするための取組を行い、考えを伝え合う場面を増やす。	自分の考えを表現し合うことが楽しいと答えた児童の割合・85% 自分の考えを伝え合うことができていて感じている保護者の割合・85%						
		チャレンジタイムや家庭学習（宿題）等を活用し、反復練習（読み・書き・計算）を強化していく。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。読書活動の充実を図る。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する」道徳を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合・85% 道徳の授業を通して、考えを振り返ったり、これからのことを考えたりしていると感じている保護者の割合・85%						
		ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上を借りるとともに、心に残った本を3冊以上あげられるようにする。	すすんで本を読んだり、借りたりすることができた割合						
健やかな体の育成	基本的生活習慣の確立を図るとともに、体力の向上を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合						
		個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	体験活動や交流学習に取り組む	みかん農園、村山大島紬などに関するまちづくり学習や、縦割り班活動や高校生との交流に取り組み、自尊感情を高める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
安心安全な学校	安全・安心な学校づくりを行うとともに、適時適切な情報発信に努める。	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	危険を予測し、回避できる児童の割合・85% 自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合・85%						
		保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	学校からの情報発信に満足している保護者の割合・80%						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三小学校 校長名：佐々木 琢

【経営理念】
 凡事徹底。子供も大人も当たり前のことを当たり前に行うことができる学校を指針とする。その上で、地域、保護者と協働して、確かな学力、健全で豊かな心と体の育成を目指す。
 また、まちづくり学習を通して、約10年後の多摩都市モノレール延伸に伴う武蔵村山市の在り方について、自分の事としてよりよりまちづくりを探究することで、社会の担い手の育成の基盤づくりを担う。

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】 宮下 秀邦
 学校運営協議会（学校評価分）
 第1回 令和7年12月18日（木）
 第2回 令和8年1月22日（木）
 第3回 令和8年2月19日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得	◇授業や家庭学習等において、タブレット端末（eライブラリ等のデジタル教材）を活用した学習を継続的に実施する。 ◇東京ベーシックドリル（算数）の診断テストを実施し、個々の課題に応じた学習を行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
	主体的に学習する態度の育成	◇授業や家庭学習等で ICT 機器（タブレット端末や提示用スクリーン等）を効果的に活用する。 ◇授業や様々な活動において、目標設定、選択の機会を設定する。	学校評価アンケートの「ICT 機器等を効果的に活用し、児童が学習活動に主体的に学ぶように努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
豊かな心の育成	規範意識及び社会性の向上	◇「きまりを守ること」の意義について理解を深める指導をし、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させ、きまりやルールを当たり前を守る態度を育成する。 ◇全ての教職員が挨拶を実践し、保護者や地域とも連携して、挨拶の習慣の定着をめざす。	学校評価アンケートの「きまりをまもることの意義について理解を深める指導や教職員が率先して挨拶するなど、挨拶する習慣の定着に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
	児童一人一人を大切にしたい教育の推進	◇呼名の仕方、掲示物等、児童一人一人を大切にしたい教育を全校あげて実践する。 ◇ふれあい月間において、いじめについて児童が主体的に考える取組を実施する。 ◇いじめアンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見の徹底を図る。	学校評価アンケートの「児童一人一人を大切にしたい教育活動を実践するとともに、いじめや不登校の未然防止・早期発見に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上	◇体力テストにおいて、個々の目標を設定するなど、主体的に活動に取り組むよう工夫する。 ◇丘の上スポーツタイム等の体育的活動の充実を図ると共に、体力向上に向けた授業の改善を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
	学校保健活動や健康課題の情報発信	◇生活リズムチェック等を通して、児童の健康課題を把握する。 ◇毎月の保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知を行う。	学校評価アンケートの「児童の健康課題の把握に努めるとともに、保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
まちづくり学習の充実	まちづくり学習の推進	◇子供の声を大切にしたい学びの展開。 ◇地域や行政と連携した防災教育や環境教育の推進。 ◇地域の商業施設や、農園等と連携を図り、校内から市内へと活動の幅を広げる。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	地域と共に歩む学校（保護者・地域との連携）	◇学校運営協議会や三中学校区教育推進協議会を中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図る。 ◇地域の人材（学生等）を活用した地域未来塾の充実を図る。	学校評価アンケートの「学校運営協議会などを中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図っている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
学校裁量	情報発信力の強化	◇ホームページ、学校公式 X（旧ツイッター）、校支援アプリや一斉配信メール等を通じて、リアルタイムな情報発信に努める。	学校評価アンケートの「連絡メールやホームページ、学校公式 X 等で教育活動の様子を伝えるなど、積極的な情報発信に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第八小学校 校長名：井口 洋

【経営理念】

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校

～「ABC」(AあたりまえのことをBばかりにしないでCちゃんとやる)～

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】	
学校運営協議会（学校評価分）	
第1回	令和7年 7月10日（木）
第2回	令和7年12月18日（木）
第3回	令和8年 3月 5日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに東京都及び本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	◇習熟の時間を活用して、基礎学力の定着を図る。	○ベーシック・ドリル診断テストCにて、全児童の正答率が7割を上回っている。						
		◇期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇「挨拶の励行」を推進する。（随時） ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。 ○教員の自己評価において、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	◇検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ◇「ほけんだより」を発行して、保護者へ健康の保持増進について啓発する。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にしたい思いを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	◇地域人材を活用した授業を積極的に行うことで、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を発信したり、社会科とも関連させたりしながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第九小学校 校長名：吉成かおる

<p>【経営理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標の実現に向けて、粘り強く取り組み、自らの道を切り拓く子供を育てる学校 ・自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長】 石橋 修 学校運営協議会（学校評価分） 令和7年7月28日（月） 令和8年1月29日（木）</p>

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	児童の学ぶ意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境や授業展開により、児童の「できた、わかった」を引き出し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。	児童アンケートによる授業に関する肯定的評価が80%以上						
	思考力・判断力・表現力の育成	探究的な学習過程を重視し、課題に対する自分の考えを書くこと、互いの考えや意見を交流し学び合うことの2点に対する方策と時間の確保により思考力・判断力・表現力を育てる。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	安心・安全で、児童が集団の中で自分のよさと力を発揮し、前向きな意欲をもてる学校生活の実現	いじめ防止に関わる授業、「学校生活アンケート」、都スクールカウンセラー面談、縦割り班活動による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	児童アンケートによる学校生活に対する肯定的評価が80%以上						
	健康な体を意識させる日常的な指導の充実	縦割り班活動（清掃、遠足、集会）などの異学年交流を通して、役割や責任をもち、集団に貢献することで自己有用感を育む場を作る。また、他者に感謝する心を育てる。	児童アンケートによる縦割り活動への肯定的評価が90%以上						
健やかな体の育成	丈夫な体とたくましい心の育成	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、体育の時間は児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価が80%以上						
	健康な体を意識させる日常的な指導の充実	休み時間の全校外遊びの奨励、なわとび週間、持久走週間の取組、体育委員会による休み時間の体育倉庫内にある用具の貸し出し等を実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	生活科・総合的な学習の時間とおして、自ら課題を見付け、協働的に解決していく学習を進める。	各学年において、地域を知り、地域を大切にする課題について考え、主体的に協働的に解決に取り組む探究的な学習を実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	生活科・総合的な学習の時間とおして、自ら課題を見付け、協働的に解決していく学習を進める。	全ての学年で、地域の人材・施設・環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を継続的に実施する。	教職員による取組評価が90%以上						
学校裁量	地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	情報提供手段として保護者メールの発出、学校X（旧 Twitter）の週3回以上の更新、全学級による学級だよりの発行、月に3回以上のHP更新を行う。	保護者アンケートによる肯定的評価が80%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第十学校 校長名：今井 一馬

【経営理念】
 「午前5時間・40分授業で『自立×探究』を目指す学校」
 ア 「自立×探究」のサイクルにより、目標を達成する喜びを味わう。 ・児童の探究的な学習を充実させ、集中して考える力を養う。
 イ 自分事のように相手の気持ちを考え、自分も他者も大切に。 ・子供同士が互いの差異やよさを確認し、それらを受け入れ尊重し合う。
 ウ 食や健康に関する理解を深め、健やかな体をつくる活動にすすんで参加する。 ・日常的、季節的に取り組む活動を設定し、体力向上の習慣を確立する。

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】 安部 正
 学校運営協議会（学校評価分）
 第1回 令和7年10月12日（木）
 第2回 令和8年 1月 8日（木）
 第3回 令和8年 2月12日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学びに向かう姿勢を育てる ・個別最適・協働的な学びの推進 ・課題解決的な学習の推進 ・形成的評価の重視 ・基礎基本の定着	学校の授業と個別の時間との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。単元テストの平均点が70点を上回っている。						
		I C T機器（デジタル教科書・一人1台端末の活用等）の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合（教員の記録）						
		課題解決的な学習を展開し、形成的評価を行っていく。	課題解決的な学習・形成的評価を実践できた授業の割合（教員の記録）						
		教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合（教員の記録）						
豊かな心の育成	自己肯定感を高める ・道徳授業の充実 ・特別活動の充実 ・豊かな人間性を育む ・椅子を入れる指導 ・体力づくりの推進	「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合（児童評価）						
		縦割り班活動において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班活動で協力できた児童の割合（児童評価）						
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合（児童評価）						
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童（解消済み含む）の割合（いじめアンケート）						
		体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	「体育の時間が好きである」児童の割合（児童評価） 【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	「中休みなどの外遊びが好きである」児童の割合（児童評価）						
地域に根差した学校づくり	開かれた学校をつくる ・地域資源・ボランティアの活用 ・キャリア教育の充実 ・保護者・地域と協働し共有する学校の推進	地域人材や会社、ボランティア等と連携し、地域内外への見聞を広め、まちづくりへの主体者意識を育む。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。	行事に対するボランティア参加の割合（学校の記録）						
		保護者会の内容や手法（オンライン含む）を充実させ、参加率6割を目指す。	保護者会の参加率（学校の記録）						
		学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。	H Pの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を月2回程度の割合で実施（学校・教員の記録）						
		地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。	地域の行事等に教員の誰かが参加する割合（学校の記録）						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立雷塚小学校 校長名：赤坂 弘樹

<p>【経営理念】 知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。</p>
--

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長 吉澤 幹郎】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和7年6月19日（木） 第2回 令和 年 月 日（ ） 第3回 令和 年 月 日（ ）</p>	
---	--

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全ての児童に対する基礎的・基本的学力の定着と児童一人一人の学力向上に努める。	東京ベーシックドリルを6月に実施し、児童の課題点を把握する。11月に2回目を実施し、児童の変容を見る。その間に復習プリントやICTドリルなどを活用して、基礎的・基本的な学力を向上させる。	児童一人一人が、東京ベーシックドリルの解答率を6月より10%以上上回っている。						
		前年度の学力調査の結果をもとに、児童の実態を把握し、授業だけでなく、朝学習や家庭学習、放課後学習教室（雷塾）など、継続的な復習の場を設ける。	市学力調査にて、（小5）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4）を上回っている。						
豊かな心の育成	人権教育の推進のため教育活動全体で道徳教育に取り組み、児童の道徳性を養う。また、特別支援学級と通常級の交流を推進する。	年間を通して、全校道徳の日を設け、内容項目の学びを学校だけでなく、家庭にも呼び掛ける。	年末の児童にアンケートで友達を大切にしている児童は90%以上、自分を大切にしている児童は80%以上上回っている。						
		担任間で連携して、特別支援学級と通常級の児童が総合的な学習の時間や行事等で交流を行い、相互理解を深める。	全学年が授業と行事で交流している。						
健やかな体の育成	体育科の授業の充実を図り、体力の向上を目指す。健康な体を育むようにする。	体育科授業年間計画をもとに、各学年が計画的に運動量を確保できるように考え、授業の充実を図る。	学習カードの振り返りや授業中の観察などで、児童が適切に運動し、健康に気を付けて行動している。						
		縄跳び月間や持久走月間、体育集会など体力向上に向けた取組を実施する。	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、保護者・地域と連携・協力し、地域に根ざした探究的な活動の推進	今年度は、「まちづくり学習」の一環で学校と地域とで交流体験や交流学習を行う。	全学年が、交流体験や交流学習をしている。						
		まちづくり学習を校内研究に位置づけ、それぞれの学年で単元の課題を設定し、最終的に発信できるような取組を考え、実施する。	学校自己評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上上回っている。						
学校裁量	「人を大切にする学校」を合い言葉に、主体的に仕事に取り組む人材が育つ「チーム雷塚」の創成	日頃から「人を大切にする学校」をモットーに、教え、教わる協働的な関係を築き、すすんで仕事を実践する。	学校自己評価アンケートにおいて、全体で80%を上回っている。						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園 統括校長名：井内 潔

<p>【経営理念】</p> <p>施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人の関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。</p> <p>(1) 義務教育9年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校</p> <p>(2) 施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校</p> <p>(3) 地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校</p>

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長 羽鳥 直美】	
学校運営協議会（学校評価分）	
第1回	令和7年 7月16日（水）
第2回	令和7年11月20日（木）
第3回	令和8年 2月19日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	タブレットPCなどのICT機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	タブレットPCの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が80%以上						
		各教科の学習において、問題練習を行う時間を設定し、問題に繰り返し取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が90%以上						
	生命を尊重する心を育む道徳教育の推進	道徳科の学習において、内容項目D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導を重視して実施する。	動植物など生命ある物を大切にしていると回答した児童・生徒の割合が90%以上						
健やかな体の育成	進んで運動しようとする意識の醸成	休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。	すすんで運動しようとしている児童・生徒の割合80%以上						
	児童・生徒の体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が80%以上						
	学校からの情報発信による家庭・地域との連携	学校だより、学年だより、学級だより及びホームページやXを活用し、計画的に学校の情報を発信する。	学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合が90%以上						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第七小学校 校長名：川口 周作

<p>【経営理念】</p> <p>(1) 自ら学びに向かう力を育む学校 「意欲をもって自ら学ぶ児童の育成 (学ぶ楽しさ)」</p> <p>(2) 豊かな人間性を育む学校 (人とかかわる楽しさ)</p> <p>(3) 心と体の健康保持増進を育む学校 (元気に育つ楽しさ)</p>

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長】</p> <p>学校運営協議会 (学校評価分)</p> <p>第1回 令和7年 6月12日 (金)</p> <p>第2回 令和7年12月13日 (土)</p> <p>第3回 令和8年 2月19日 (木)</p>	
---	--

項目	計画・取組			自己評価 (令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度 (%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	<p>「意欲をもって自ら学ぶ児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの授業でも「じっくり考える」「発表し交流する」場面を創り、言語活動の充実を図る。 ・「考える楽しさ」「わかる楽しさ」「できるようになる楽しさ」を感じさせ、学習習慣や基礎的な学力を身に付けさせる。 	<p>生活時程のチャレンジタイム (2校時後の15分間)において、計画的に漢字や計算・読書活動・学習の補充などを実施する。</p>	<p>学校評価アンケートの「基礎学力が身についた」「学習意欲」の項目について、肯定的な回答を70%以上。</p>						
		<p>毎週、金曜日の放課後に各クラスにおいて数名の取り出し学習 (教科学習の学習支援)を実施する。</p>	<p>【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値 (小4・中1時)を上回っている。</p>						
豊かな心の育成	<p>「人への優しさと自分への強さをもった児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わる多様な活動の中で児童が安心できる環境を作る。 ・児童の心に寄り添う生活指導によっていじめや問題行動、学校不適応の早期発見を図る。 	<p>特別活動の「学級活動・たてわり班活動」において、課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定したりする中で「話し合い」を活動の中心に置く活動を行う。</p>	<p>学校評価アンケートの「温かい関わりと思いやりの心が育っている」の項目について、肯定的な回答を70%以上。</p>						
		<p>道徳の学習において、重点指導として「自立心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」の価値項目について学期1回以上行う。</p>	<p>ふれあい月間の実施後調査 (11月)において、いじめや生活指導関連において、肯定的な回答を60%以上。</p>						
健やかな体の育成	<p>「心身ともに最後までやり抜く児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かす楽しさ」「挑戦する楽しさ」「健康に生きる楽しさ」を感じさせる。 ・心身ともに健康で最後までやり抜く児童の育成を図る。 	<p>・3年生以上では、食や睡眠を主に「健康」に対する意識を高める保健の学習の工夫と改善を行う。</p> <p>・全校児童の理解啓発とする教育活動 (ゲストティーチャー招聘)を行う。</p>	<p>学校評価アンケートの「健康を意識した生活習慣を送っている」の項目について、肯定的な回答を70%以上。</p>						
		<p>・全学年において体育学習の工夫と改善を行う。(校内研究授業年3回実施)</p> <p>・運動の楽しさを味わうための体育的活動を実施する。(学期1回実施)</p>	<p>【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。</p>						
まちづくり学習の充実	<p>「総合的な学習の時間を中心に学習を進め、キャリア教育や教科横断的な学習とも関連させながら学習活動の実施」</p> <p>学年末において、活動の報告会を設け、自己の振り返りや今後のまちづくりについて考えていくことができるように計画的に進める。</p>	<p>学校だよりや学年からのお知らせ等で「まちづくり学習」の学習状況や取組について、学期に1回または月に1回程度、保護者に情報提供していく。</p>	<p>学校評価アンケートの「各学年の『まちづくり学習』について情報発信をしている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上。</p>						
		<p>学年末の授業公開を全学年が「まちづくり学習」の報告の授業とする。授業を参観後、保護者や地域の方から感想や意見を聞く。</p>	<p>【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上</p>						
学校裁量	<p>校内研究「運動の楽しさを味わい、健康意識を高めていくむさなっ子チャレンジ」の研究主題を基に、「体育」「食育」「生活習慣」の3つの柱を中心に健康意識を高める。</p>	<p>本校の児童の健康意識を高め、運動することで得られる価値を見いだすために「体育」「食育」「生活習慣」の3つの分科会で、それぞれが課題の工夫と改善の授業や取組を行う。また、家庭との連携を図る。</p>	<p>体力調査の児童アンケートにおいて、「体育」「食育」「生活習慣」に関する項目でそれぞれ肯定的な回答を70%以上。</p>						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 校長名：福泉 宏介

【経営理念】 小中連携を通して「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る。

- 生徒の生命を第一に考え、生徒にとって心身ともに安全で安心な学習環境を整える。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習意欲の向上、探究的な学びを目指す。
- 自他を大切にすることをもち、協働により互いを尊重しながら正義の通る集団を育てる。

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】
 学校運営協議会（学校評価分）
 第1回 令和7年 4月23日（水）
 第2回 令和7年11月19日（水）
 第3回 令和8年 2月18日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ○ 学習の習熟が不足する生徒に、放課後や長期休業日を利用して補充的な学習を実施する他、日常の小テストや自学ノートを活用して基礎学力を高める。 	各教科等の授業においてねらいを明示して学習に見通しを持たせ週条理に振り返りを行うこと、ICTの有効活用を図ること、協働的な学びの場を授業内に設定することにより、主体的に学ぶ態度の育成と学んだ内容の定着を図る。	学校評価アンケート(生徒・保護者)の「学校は生徒に分かりやすい授業を行い、生徒の基礎・基本の定着に力を尽くしている。」の項目について、肯定的な回答を75%以上						
		自主学習ノートの取組の徹底や日常の小テスト等の実施により、基礎・基本の徹底とその活用による思考力・判断力・表現力を養う。習熟の度合いに応じて学習教室を活用させる。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他を大切にすることを養い、いじめを許さない指導を徹底するとともに、思いやりの心を育て、偏見や差別をなくすために人権教育・道徳教育を推進する。 ○ いじめ・嫌がらせ等の問題行動や不登校の未然防止に組織的に取り組み、正義の通る集団に育てていく。 	道徳授業を教員がローテーションにより授業を行うことで、生徒に多様な事例や価値観を示しながら教科横断的・相乗的な指導を行い、生徒の心を耕す。	学校評価アンケート(生徒・保護者)において、「道徳の授業で心の成長を感じることがある(促している)。」の項目で肯定的な回答を80%以上						
		定期的なアンケートの結果を分析・活用し、全教員で共通理解を図りながら一人一人を大切にす生徒指導の徹底を図る。必要に応じて外部機関とも連携を取り、個に応じた対応の充実を図る。	学校評価アンケートの「担任やスクールカウンセラーは、一人一人を大切にす指導を行っている。」の項目で、肯定的な回答を80%以上						
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の安心・安全を第一に考え、健康・防災・防犯の安全な学校生活のための共通理解を図り、組織的に対応する。健康的な生活を送るための規則正しい生活や食生活の充実について、全教員で指導する。 ○ 保健体育科の授業や体育的行事をはじめ、様々な取組から生徒の体力向上を図る。 	生活指導部を中心に行事や委員会活動を通して全教職員の共通理解の下で取組を推進し、生徒の健康・安全の意識を高める。	学校評価アンケートの「身体の健康と安全について注意して生活している」「生徒の安全・健康面への対応をしっかりとしている」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
		保健体育科の授業における指導をはじめ、運動部活動、運動会の自主的な取組やランニング・ウォーキングイベント等の実施により、生徒の体力向上の意欲を高める。	【全校共通】全国体力・運動能力・運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、それを柱に各教科等の指導と関連を図りながら指導の充実を図る。また、探究的・体験的な楽手活動を保護者、地域と連携して進め、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度とそのための資質・能力を育てる。	総合的な学習の時間に「自分の生き方を発見する」を全学年テーマとして設定し、職業理解、体験的課題解決、伝統・文化理解や教科横断的な学習を通して、地域の一員として現代的な諸課題に対応する資質・能力を育てる。	学校評価アンケートの「職業調べ、進路学習等を通して将来の生き方や進路について考えるようになった。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
		学年単位で具体的な課題を設定し、探究的・体験的な学習活動を通して情報の収集・選択・活用、プレゼンやポスターによる発信を行い、主体的に取り組む態度と情報活用能力・発信能力を養う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	小中一貫校基準「自分の考えを、理由を添えて説明できる児童・生徒」を、小中連携による学習指導や行事の実施を通して育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 話し合い活動を通して小中一貫校基準を育む授業の在り方について、小中相互の授業参観等の取組により共通理解を図り、日々の指導に生かす。 ② 行事やボランティア活動等の連携を通して、自分の考えをもち主体的に行動する生徒を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校評価アンケート(生徒)において「私は、自分の考えについて理由を添えて述べる事ができている。」の項目について肯定的な回答を70%以上 ② 学校評価アンケート(生徒、保護者)の小中連携の項目において肯定的評価75%以上 						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第一中学校 校長名：森元 隆之

【経営理念】

(1) 基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校

(2) 地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校

(3) 道徳的心情や道徳的実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】小泉 亨 (第43代 PTA 会長)

学校運営協議会 (学校評価分)

第1回 令和 7年 6月12日 (木)

第2回 令和 7年11月14日 (金)

第3回 令和 8年 2月 6日 (金)

項目	計画・取組			自己評価 (令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度 (%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	① 生徒の基礎学力の定着 ② 教師の授業力の向上	① 定期考査前の家庭学習週間の学習計画表の作成を通して家庭学習を定着させる。 ① 夏休みの補習教室や第三学年を対象とした地域未来塾を活用し、学習意欲の向上を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
		② 全教員が学習の内容やねらいに応じてICTを活用する。 ② 同教科・学年間で授業参観を学期に1回以上行い、意見交流を行う。	学校評価の「授業のわかりやすさ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を80%以上						
豊かな心の育成	① いじめの撲滅 ② 生徒の規範意識の醸成	① 「いじめ」をテーマにした道徳の授業を年1回以上行い、考えを深めたり交流したりする。 ① 『人権教育プログラム』を活用した授業の実施。教員への研修の実施	学校評価の「学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
		② キャリア教育(進路学習)の中で礼儀作法について学ぶ場を設定 ② 校区の小学校と連携したあいさつ運動を学期ごとに実施	学校評価の「挨拶や自治的活動、生き方」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
健やかな体の育成	生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実	珍しいスポーツ(ラート等)を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。 2種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業の実施。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又80は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。 学校評価の「運動やスポーツ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を70%以上						
まちづくり学習の充実	① 総合的な学習の時間の充実 ② 地域への愛郷心がある生徒の育成	① 学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」(1年生)「村山から外へ」(2年生)「未来へ向かって」(3年生)を関連させた授業の実施	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		② 教科の学習や行事等において地域人材を活用した活動の実施 ② クリーン作戦やさくら祭りなど地域行事やボランティア活動への生徒の参加	学校評価の「地元への愛着」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
学校裁量	開かれた学校の推進	学校ホームページやX(旧Twitter)を活用した情報配信の強化。	月に1回以上配信する。 学校評価で保護者による各項目の「分からない」を20%以下						

※到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三中学校 校長名：飯星 健司

<p>【経営理念】</p> <p>① 生徒一人一人を大切に ② 生徒の良さ、可能性を伸ばす ③ 教師の持ち味を生かし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める</p>
--

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長 鎌田 伸一】</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回 令和7年 6月14日（土）</p> <p>第2回 令和7年12月12日（金）</p> <p>第3回 令和8年 2月 6日（金）</p>	
--	--

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る	・タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 ・補充的学習（地域未来塾等）の実施。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
	【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る	・家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・タブレット端末等で学習環境を整える。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
	【中期】読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・朝学活前に朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 ・社会科を中心にNIEを実施する。	年間読書の冊数を平均3冊以上 新聞投稿者が前年度（42名）以上						
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	・年3回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施。 ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。	生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが90%以上						
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	・SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる ・サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる。	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上 不登校出現率が前年度以下						
	【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・市の礼儀読本の活用やあいさつ運動等を行い、礼儀やマナーを身に付けさせる。	学校評価アンケートで肯定的な回答が80%以上						
健やかな体の	【中期】基礎体力の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピック（年5回以上）の実施。 ・栄村駅伝や市の駅伝大会等への参加。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
	【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・「弁当の日」や「食育の日」、「マナー講座」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上						
まちづくり学習の	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。	・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。（1年：川越体験学習、2年：東京体験学習、3年：修学旅行等） ・長期休業日を生かし、全学年でCO ₂ 削減の取組を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上						
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進	・校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施。 ・「ふれあいフェスティバル」やキャリア教育交流を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が90%以上						
	【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の50%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第五中学校 校長名：大野 博史

<p>【経営理念】</p> <p>生命尊重や思いやりの心を大切にし、仲間とともに学び、成長することができる学校</p> <p>(1) 生徒一人一人が学力と体力の向上に主体的に取り組み、豊かな個性と能力の伸長を図る。</p> <p>(2) 仲間とのよりよい人間関係や集団生活を大切にし、豊かな心と社会性を育む。</p> <p>(3) 地域を知り、地域に貢献する活動を通して地域や社会の一員として生きていく自覚を高める。</p>

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長】堀内 一弘</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回 令和7年 7月 3日（木）</p> <p>第2回 令和7年 11月 6日（木）</p> <p>第3回 令和8年 2月 12日（木）</p>
--

項目	計画・取組			自己評価（令和7年12月25現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る	「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	生徒アンケートにおいて、家庭学習に日常的に取り組んでいる生徒が60%以上						
		地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポーターを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	生命尊重や思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる	特色ある教育活動推進校として、生命尊重や思いやりの心の育成をテーマに講演会や授業を行う。	生徒、保護者アンケートにおいて生命尊重や思いやりの心が感じられたと答えた割合が80%以上						
		年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行う中で生徒が主体的にいじめ防止の取り組みを行うように推進する。	教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%以上						
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を見直し、高齢者、障がい者理解を深め、身ともに健やかな生徒を育てる。	パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流を通して、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。	体験活動や交流活動を年間1回以上行う。						
		基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取り組みを通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域とともに生きていることを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。	地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域社会に貢献する生徒を育成するため、地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催する。	生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという肯定的な回答が75%以上						
		KKM(高齢者が暮らしやすい武蔵村山市)、MMM(魅力ある武蔵村山市)の2つのプロジェクトを通じて、市の現状と課題について学習し、発表活動等を通じてより良い武蔵村山市をつくるためのアイデアを提案する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	自他の生命を尊重し、他の思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。	特別の教科 道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に1回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。	生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたと答える生徒が75%以上						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～
第48回武蔵村山市歩け歩け大会の開催結果について

- | | | | |
|----|---------|--|-----|
| 1 | 主 催 | 武蔵村山市教育委員会 | |
| 2 | 主 管 | 武蔵村山市スポーツ推進委員協議会 | |
| 3 | 協 力 | 一般社団法人武蔵村山市体育協会
武蔵村山市地区スポーツ協力員連絡会 | |
| 4 | 実 施 日 | 令和7年5月18日（日）午前9時～9時30分受付・順次スタート | |
| 5 | コース及び距離 | 野山北公園運動場（スタート）→出会いの広場→六地藏→猿久保→六道山→猿久保→六地藏→出会いの広場→野山北公園運動場（ゴール）約6.5km | |
| 6 | 参加状況 | 計186人
最高年齢87歳 最少年齢4歳
内訳は、別紙「第48回歩け歩け大会 参加者一覧表」参照 | |
| 7 | 最終ゴール者 | 午前11時30分 | |
| 8 | 完 歩 者 | 186人 | |
| 9 | ケ ガ 人 | なし | |
| 10 | 協 力 者 | スポーツ推進委員 | 14名 |
| | | 地区スポーツ協力員 | 16名 |
| | | 体 育 協 会 | 2名 |
| | | 合 計 | 32名 |

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
1	1									1	1			1			
2		1	1								1			1			
3		1	1								1			1			
4	1			1							1					1	
5	1									1	1			1			
6	1		1								1			1			
7	1							1			1					1	
8		1								1	1					1	
9		1								1	1					1	
10		1								1	1					1	
11		1	1								1			1			
12		1	1								1			1			
13		1								1	1					1	
14		1								1	1			1			
15		1		1							1					1	
16		1					1				1					1	
17			1								1					1	
18		1	1								1					1	
19	1		1								1					1	
20	1							1			1					1	
21	1									1	1					1	
22		1								1	1					1	
23	1						1				1					1	
24		1	1								1			1			
25		1	1								1					1	
26		1	1								1					1	
27		1	1								1					1	
28		1	1								1					1	
29		1								1	1					1	
30		1	1								1					1	
31	1		1								1					1	
32		1					1				1					1	
33	1						1				1					1	
34		1					1				1			1			
35	1							1			1			1			
36	1									1	1					1	
37		1								1	1			1			
38		1					1				1			1			
39	1		1								1			1			
40	1		1								1			1			
41	1							1			1					1	
42	1		1								1					1	
43		1						1			1					1	
44		1		1							1			1			
45		1						1			1					1	
46		1	1								1			1			
47		1	1								1			1			
48	1		1								1			1			
49		1					1				1					1	
50	1		1								1					1	
51		1								1	1					1	
52		1		1									1			1	
53	1		1								1					1	
54	1							1			1					1	
55	1			1							1					1	
56		1						1			1					1	
57		1								1	1			1			
58	1									1	1			1			
59	1									1	1			1			
60	1			1									1	1			
61		1	1								1			1			
62	1		1								1			1			
63	1							1			1					1	
64	1								1		1			1			
65		1							1		1					1	
66	1									1	1					1	
67	1									1	1					1	
68		1								1	1					1	
69	1									1	1					1	
70	1		1								1			1			
71	1		1								1			1			
72	1		1										1	1			
73	1									1	1			1			
74		1		1									1	1			
75	1						1				1			1			
76		1								1	1					1	

第48回歩け歩け大会 参加者一覧表

別紙

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
77	1								1		1					1	
78		1							1		1					1	
79		1					1				1					1	
80		1	1								1			1			
81	1									1	1					1	
82		1								1	1					1	
83	1		1								1			1			
84	1						1				1					1	
85	1		1										1	1			
86	1		1								1			1			
87		1								1	1					1	
88	1									1	1					1	
89	1									1	1					1	
90	1		1								1			1			
91		1						1			1			1			
92		1						1				1				1	
93		1					1					1				1	
94		1							1		1			1			
95		1								1	1					1	
96		1							1		1					1	
97		1				1					1					1	
98	1								1		1			1			
99	1						1				1			1			
100	1		1								1					1	
101	1							1			1			1			
102		1	1								1			1			
103		1								1	1					1	
104		1								1	1					1	
105	1									1	1					1	
106		1							1		1			1			
107		1							1		1			1			
108		1							1		1			1			
109		1	1										1	1			
110		1					1				1					1	
111		1	1								1					1	
112	1					1					1					1	
113		1								1	1					1	
114		1								1	1					1	
115		1					1				1					1	
116		1	1								1					1	
117	1								1		1					1	
118		1							1		1					1	
119	1		1										1	1			
120	1		1								1			1			
121		1									1					1	
122	1		1										1			1	
123	1						1				1					1	
124		1	1										1			1	
125		1						1			1					1	
126	1		1								1					1	
127	1		1										1			1	
128		1						1			1					1	
129		1	1								1			1			
130	1		1								1			1			
131		1						1			1					1	
132	1								1		1					1	
133	1		1										1			1	
134	1			1									1			1	
135		1						1			1					1	
136	1								1		1					1	
137		1	1								1					1	
138		1	1								1			1			
139	1							1			1					1	
140	1		1								1					1	
141		1							1		1					1	
142	1								1		1					1	
143	1			1									1	1			
144	1								1		1					1	
145	1					1					1					1	
146		1							1		1			1			
147		1	1								1			1			
148		1							1		1					1	
149		1				1					1					1	
150		1								1	1					1	
151		1	1								1					1	
152		1	1								1					1	
153	1								1		1			1			

第48回歩け歩け大会 参加者一覧表

別紙

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
154	1		1									1					1
155	1		1									1					1
156	1							1				1					1
157		1							1			1					1
158		1	1									1					1
159		1	1									1			1		
160		1		1								1					1
161		1						1				1					1
162		1						1				1					1
163	1							1				1					1
164	1		1									1					1
165	1						1					1					1
166		1	1									1					1
167		1	1									1					1
168		1	1									1					1
169		1					1					1					1
170	1						1					1					1
171	1							1				1					1
172	1		1									1					1
173	1							1				1					1
174		1							1			1			1		
175		1								1		1			1		
176	1										1	1					1
177	1							1				1			1		
178	1									1		1					1
179		1						1				1			1		
180		1	1									1					1
181		1	1									1					1
182		1									1	1					1
183		1									1	1					1
184	1							1				1					1
185		1	1											1	1		
186		1						1				1					1
187																	
188																	
189																	
190																	
191																	
192																	
193																	
194																	
195																	
196																	
197																	
198																	
199																	
200																	
201																	
202																	
203																	
204																	
205																	
206																	
合計	84	101	65	10	0	4	20	27	18	11	30	170	2	14	62	0	124
	185		185									186			186		

年齢無記入者1名